

平成23年度愛知県がんセンター公開講座（第7回 平成24年2月5日）のご案内

講師からのメッセージ

「食道癌の診断と治療について」

食道癌は50歳以上の中高年の男性で特にタバコやお酒を好む人によくみられます。早期の食道癌は自覚症状がないことが多く、早期発見には健診が重要です。食道癌の治療には内視鏡治療、外科治療、放射線治療と抗がん剤による主に4つの治療法があります。がんの進行度や体力などを考慮して、患者さんにとって妥当性のある治療法を選択することが大切です。治療法の選択に対しては、治療法の利点、欠点をよく理解し、自分に合った治療を選ぶことが必要です。今回は食道癌の治療法やその適応、および利点、欠点などをわかりやすくお話しいたします。

消化器外科部 医長 安部 哲也

「高度進行胃がんへの挑戦」

高度リンパ節転移胃がんや、腹膜転移陽性胃がんなどの高度進行胃がんは、手術のみでは治療成績が十分ではなく、さまざまな治療手段を組み合わせた集学的治療が必要です。高度リンパ節転移胃がんに対しては、手術の前に強力な抗がん剤治療をすることにより、治療効果を高める試みが行われています。腹膜転移陽性胃がんに対しては、通常抗がん剤治療が行われますが、抗がん剤の腹腔内投与の有用性を検証する臨床試験を行っています。これらの高度進行胃がんの治療の現況と、今後の展望についてわかりやすくご紹介いたします。

消化器外科部 医長 伊藤 誠二

「消化管がんの内視鏡的治療」

近年、胃や大腸などの消化管においては内視鏡機器の進歩や手技の向上により、これまでは外科手術でないと治らなかったがんが内視鏡治療で治るようになってきています。しかし、全てのがんが対象となるわけではありません。内視鏡治療の適応は、「リンパ節転移の可能性がほとんどなく、腫瘍が一括切除できる大きさや部位にあること」が原則です。したがって、治療方針を決定するには内視鏡診断をはじめとした術前診断が重要となります。当日は拡大内視鏡等を用いた我々が行っている内視鏡診断の実際や大きな病変でも一括切除できる内視鏡治療(ESD)の実際を、ビデオ等を用いて紹介したいと思います。

内視鏡部 医長 田近 正洋

「正しく知る大腸がんとその治療」

「進行大腸がん」になられた患者さんの共通の願いは、「再発せず、より長く生きること」であります。その場合、薬物療法、放射線療法ではがんを完全に無くすことはできず、手術療法で完全切除を目標とすることが治療の基本です。根治性を重視した大腸がんの手術、すなわち「しっかりとした手術（十分な腸管切除と徹底したリンパ節郭清）」をすることが大切です。この講演ではがん治療の基本を順守した（根治性を重視した）進行大腸がんの手術療法についてお話しさせていただきます。

消化器外科部 医長 小森 康司